慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	荻野安奈教授履歴・研究業績
Sub Title	Biographical resume & list of publication of Professor Anna Ogino
Author	荻野, 安奈(Ogino, Anna)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2021
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.121, No.2 (2021. 12) ,p.i- xv
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	荻野安奈教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01210002--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

荻野安奈教授　履歴・研究業績

履歴

学歴

1975 年 3 月　　フェリス女学院高等学校卒業

1975 年 4 月　　慶應義塾大学文学部入学

幼稚園から高校まで、横浜で徒歩 10 分圏内だった。大学でようやく東京へ出られる、と思ったら一年目の日吉は横浜だった。

1978 年～ 79 年　パリ第三大学留学（慶應 – パリ第三大学交換留学生）

交換留学制度の一期生、と書くと年齢がばれる。

1980 年 3 月　　慶應義塾大学文学部（仏文学専攻）卒業

1980 年 4 月　　慶應義塾大学文学研究科修士課程（仏文学）入学

1982 年 3 月　　慶應義塾大学文学研究科修士課程（仏文学）修了

1982 年 4 月　　慶應義塾大学文学研究科博士課程（仏文学）入学

1983 年 10 月～ 1986 年 12 月

パリ第四大学（ソルボンヌ）、およびパリ高等師範学校留学（フランス政府給費留学生）

1989 年 3 月　　慶應義塾大学博士課程単位取得退学

2003 年　　十一代金原亭馬生師匠弟子入り。金原亭駒ん奈を名乗る。

現在、二つ目。

駒ん奈「いつごろ真打になれますかね」

師匠「あと 30 年はかかります」

長生きをしようと思った。

学位

1982 年 3 月　　文学修士（慶應義塾大学）

1986 年 12 月　　Docteur ès lettres 文学博士（パリ第四大学・ソルボンヌ）

職歴

1987 年 4 月　　慶應義塾大学商学部助手
1995 年 4 月　　慶應義塾大学文学部助教授
2002 年 4 月　　慶應義塾大学文学部教授

受賞歴・その他

1989 年　　義塾賞（「ラブレーの『第三の書』・『第四の書』における逆説的賛美―ルネッサンス期のコミックとコスミック研究―」に対して）
1991 年　　『背負い水』で第 105 回（平成 3 年上期）芥川龍之介賞受賞
受賞の夜の美酒は深夜に及んだ。翌朝は期末試験の監督だった。教室の学生たちに拍手で祝福されたのが忘れられない。
2002 年　　『ホラ吹きアンリの冒険』で第 53 回 読売文学賞受賞
2007 年　　フランス教育功労賞シュヴァリエ叙勲
2007 年　　盛岡そば処東家わんこそば 125 杯達成
2008 年　　第 7 回神奈川県一般女子ボクシングオープン戦中量級優勝
その後も優勝を重ねる。中量級は神奈川で 1 人だけだった。体重計に乗った瞬間、優勝が決定する。当時の筋肉は現在 1 グラムも残っていない。
2008 年　　『蟹と彼と私』で第 19 回 伊藤整文学賞受賞
2012 年　　盛岡そば処東家わんこそば 127 杯達成

選考委員

1）博士論文

1. 2010 年 3 月 20 日　パリ・ソルボンヌ大学　岩下（旧姓上代）綾、*L'Artifice de description dans le Tiers Livre et le Quart Livre de Rabelais*. 主査ミレイユ・ユション
2. 2011 年 3 月 29 日　パリ西ナンテール・ラ・デファンス大学　小池美穂、*Entre philosophie et didactisme : le cas des Discours Philosophiques de Pontus de Tyard*. 主査イザベル・パンタン

3. 2018 年 11 月 17 日　ソルボンヌ・ヌーヴェル（パリ第三）大学　竹中公二、*Relecture des Essais de Montaigne au prisme de l'amitié*. 主査ミシェル・マニャン

この 3 名が十六世紀学徒として活躍しているのが、教師としての私の最大の喜びである。

2）文学賞等

1. 1994 年～ 2014 年　　三田文学新人賞
2. 1996 年～　　読売出版広告賞
3. 2003 年～ 2012 年、2014 年～　　小泉信三賞全国高校生小論文コンテスト
4. 2009 年～　　読売文学賞

所属学会・団体

日本フランス語フランス文学会
地中海学会
日本笑い学会
日本文藝家協会
日本ペンクラブ
Société française d'étude du seizième siècle　学会ホームページを見たら、名簿から名前が消えていた。長年放置していたためと思われる。これが活字になる頃は復活していることを願う。

委員

三田文学理事　(1993 年か 1994 年に着任らしい)
読売新聞書評委員　2002 年～ 2004 年
公益財団法人日本近代文学館評議員　2005 年 6 月～ 2011 年
日本学生支援機構政策企画委員会委員　2006 年 4 月～ 2008 年 3 月
独立行政法人日本原子力研究開発機構広報企画委員　2006 年～ 2010 年、2013 年～ 2017 年
内閣官房「美しい国づくり」プロジェクト・企画会議委員　2007 年

これから、という時に第 1 次安倍内閣が終了してしまった。
公益財団法人新国立劇場運営財団評議員　2011 年 4 月～ 2016 年 6 月
公益財団法人日本近代文学館運営審議会委員　2011 年 8 月～
公益財団法人神奈川文学振興会理事　2017 年～
テレビ東京放送番組審議会委員　2018 年～
藝文学会委員長　2021 年 4 月～ 2022 年 3 月

手元には他にも総理府観光政策審議会や横浜市医療政策有識者会議などの資料が残っている。いつ頃の任期か、記憶にない。相手の電話番号がわかるものには電話を入れた。「私は何の役職をいつ頃やっていたのでしょうか」、聞かれたほうも困ったことだろう。

以上

業績一覧

2021 年 10 月 1 日現在

著書

1. *Les éloges paradoxaux dans le Tiers et le Quart Livres de Rabelais, Enquête sur le comique et le cosmique à la Renaissance,* Tokyo, France Tosho, 1989.
   博士論文。当然だが、私が出した本の中で最も売れなかった。
2. 『ラブレー出帆』、岩波書店、1994 年
3. 『ラブレーで元気になる』、みすず書房、2005 年

共著

1. 『死の発見』（鼎談）、松原秀一、養老孟司、岩波書店、1997 年
2. 『ミハイル・バフチンの時空』、せりか書房、1997 年、p.26-35
3. 『世界古本探しの旅』、朝日新聞社、1998 年、p.5-28
   恩師松原秀一先生とパリの古本屋を巡ったのは、大切な思い出。
4. 『週刊朝日百科　世界の文学』、「2 ヨーロッパ II　セルバンテス、ラブレーほか」、朝日新聞社、1999 年、p.48
5. 『ノストラダムスとルネサンス』、岩波書店、2000 年、p.149-180
6. 『方法の冒険』、「21 世紀　文学の創造 3」、岩波書店、2001 年、p.35-69
7. 『「教養」を考える　現代を読みとくために』、慶應義塾大学出版会、2003 年、p.171-194、p.210-230
8. 『ゾラの可能性　表象・科学・身体』、藤原書店、2005 年、p.273-298
9. 『恋の研究』、慶應義塾大学出版会、2005 年、p.69-93
   「不倫のためのフランス文学」というタイトルは、今なら PC に引っかかるだろうか。
10. 『人造美女は可能か ?』、慶應義塾大学出版会、2006 年、p.142-176

11. 『フランス文学をひらく　テーマ･技法･制度』、慶應義塾大学出版会、2010 年、p.17-32
12. 『フランス文学史Ⅰ』、慶應義塾大学出版会、2017 年、p.81-83, p.85-91, p.99-106, p.114-121
13. *L'Archipel des séismes, écrits du Japon après le 11 mars 2011*, sous la direction de Corinne Quentin et Cécile Sakai, Éditions Philippe Picquier, 2012, p.332-346, « Le grand séisme, entre désir et morale »

論文・記事

1. 「ラブレーに於けるコミックとコスミック―『第四之書』57 章－ 62 章『大腹師』賛美」、『藝文研究』、No.52、1988 年、p.229-253
2. « Le comique et le cosmique dans l'œuvre de Rabelais : l'eloge des dettes (*Le Tiers Livre*, ch.III-ch.IV) », *Études de Langue et Littérature Françaises*, No.52, 1988, p. 13-28
3. 「焼けたトタン屋根の上のお好み焼き　或いは食による自己表現について」、『NEW FEMINISM REVIEW VOL.2　女と表現　フェミニズム批評の現在』、1991 年 5 月、p.236-245
4. 「奇数で嘘をつけ―ラブレーをめぐる嘘と本当の話―」、『藝文研究』、No.63、1993 年、p.184-195
5. 「無頼派の文学について」（座談会）、東郷克美、久保田芳太郎、『国文学解釈と鑑賞』、至文堂、1994 年 9 月号、p.10-30
6. « Les muses s'amusent - Rabelais au Japon », *L'atelier du roman*, No.5, 1995, p.42-48
7. 「与太麿先生、ヨタを飛ばす」、『海燕』、1996 年 10 月号、p.56-62
8. 「ラブレーのスカト･ロジック―『ガルガンチュア』第十三章翻弄訳試案」、『藝文研究』、No.72、1997 年、p.41-58
9. 「笑いと美の共存」（鼎談）、夏石番矢、復本一郎、『パロディーの世紀 Series 俳句世界 6』、雄山閣出版、1997 年、p.2-51
10. 「レトリックとしてのパロディー」、『パロディーの世紀　Series 俳句世界 6』、雄山閣出版、1997 年、p.104-111
11. 「ラブレーかぶれの物語」、『ふらんす』、1997 年 10 月～ 1998 年 3 月、10 月

号 p.85-88、11 月号 p85-88、12 月号 p.85-88、1 月号 p.85-88、2 月号 p.85-88、3 月号 p.81-84

半年だけだが、ラブレーの「超訳」を試みた。時事ネタを盛り込んだら、その部分が今となっては古びてしまった。笑いの文学を扱うのは難しい。

12.「芥川文学の魅力」（対談）、宮坂覺、『国文学解釈と鑑賞』、至文堂、1999 年 11 月号、p.10-26

13.「座談会 昭和文学史 (13) 永井荷風と坂口安吾―戦時下の老年と青春―」、川本三郎、井上ひさし、小森陽一、『すばる』、2000 年 1 月号、p.260-305

14.「言葉に遊ばれるために」、『言語』、2000 年 2 月号、p.28-33

15.「『第二之書パンタグリュエル』第十六章試訳、あるいは作品のへそについて」、『藝文研究』、No.77、1999 年、p.96-108

16.「アリアーヌ・ムヌーシュキンとのながーーーい一日」、『すばる』2001 年 11 月号、p.248-261

17.「コクトー・ダンスをあなたと」、『すばる』、徳永恭子共著、2001 年 4 月号、p.166-177

徳永さんは私のゼミで、コクトーで卒論を書いた。懐かしい思い出だ。

18. « Le voyage au bout de l'ennui », *L'atelier du roman*, No.31, 2002, p.34-46

タイトルが駄洒落とわかるのは、フランス語をやった人。

19.「私、マルグリット・デュラス。」、『すばる』、2003 年 1 月～ 2003 年 11 月、1 月号 p.177-186、2 月号 p.152-156、3 月号 p.64-69、4 月号 p.153-159、5 月号 p.76-83、7 月号 p.140-147、8 月号 p.188-193、9 月号 p.100-107、10 月号 p.168-174、11 月号 p.164-172

連載は結局本にはならなかったが、私のデュラス愛の証拠として引いておく。

20.「フランス語アンナ話こんな話」、『NHK ラジオ　フランス語講座』、日本放送出版協会、2003 年 4 月～ 2006 年 3 月

これも本にはならなかった。

21.「ムダ口のススメ」、『NHK 知るを楽しむ　日本語なるほど塾』、日本放送出版協会、2005 年 12 月－ 2006 年 1 月、p.7-72

22.「主婦の『歓喜』あるいはパニュルジュの結婚―M・デュラス　VS　F・ラブレー―」、『藝文研究』No.91-3、2006 年、p.290-309

23.「『鼻』学について」、『藝文研究』、No.101-2、2011 年、p.47-62

24.「フラふら書簡」、『まいにちフランス語』（小倉孝誠氏との往復書簡）、NHK 出版、2011 年 4 月～ 2012 年 3 月
25. « Un bavardage sur le silence », *Du Japon, La Nouvelle Revue Française*, sous la direction de Philippe Forest, n° 599-600, mars 2012, Paris, Gallimard, p.198-203.
26.「ラブレーとラファルグ― 19 世紀におけるラブレー受容の 1 例―」、『藝文研究』、No.107、2014 年、p.155-172
27.「平野隆文先生の霊的精神（エスプリ）に捧ぐ」、『この聖なる友情　平野隆文先生追悼文集』第 2 巻（Web）、Association Takarabelais、2015 年、p.248-256
28.「『田園閑話』閑話」、『藝文研究』、No.119-2、2020 年、p.1-13
29. « Rabelais et le Rakugo », *Inextinguible Rabelais*, actes du colloque international Paris-Sorbonne, 12-15 novembre 2014, sous la direction de Mireille Huchon, Nicolas Le Cadet et Romain Menini, avec la collaboration de Marie-Claire Thomine, Paris, Classiques Garnier, 2021, p.731-746
落語と同じネタがラブレーにある。落語では、ケチが鰻の匂いでご飯を食べる。その代金を銭の鳴る音で払う、という小話だ。ラブレーでは焼肉の匂いでパンを食べることになっている。同じタイプの話はイタリア、ドイツ、トルコにも存在する。

語学教科書

1. 『フランス語に乾杯！』、朝吹亮二、林栄美子、駿河台出版社、1990 年
2. 『荻野アンナのフラふら落語』、小池美穂、Vincent Brancourt、NHK 出版、2014 年
日仏会館のイベントで、この中の「ジュテム」（ジュゲムのパロディ）を読んだら結構ウケた。

翻訳

1. ジャン＝ジャック・サンペ、『とんだタビュラン』、太平社、1997 年
自転車に乗れない自転車店主の話。訳者の私も、担当編集者も、自転車に乗れない。
2. ジャン＝ジャック・サンペ、『恋人たち―アーム・スール―』、太平社、1998 年

3. マリー・オディール・ジュード、『おはなのすきなおおかみくん』、講談社、1999 年
4. ジャン＝ジャック・サンペ、『サン・トロペ』、太平社、1999 年
5. ノエル・デュ・ファイユ、「田園閑話」、『フランス・ルネサンス文学集 2 笑いと涙と』、白水社、2016 年、p.7-102
6. ジャン＝ジャック・サンペ、『今さら言えない小さな秘密』、株式会社ファベル、2019 年（『とんだタビュラン』改訳）

訳詩

マルセル・エイメ原作、ディディエ・ヴァン・コーヴェレール台本、『壁抜け男』、1999 年 (劇団四季にて 11 月福岡初演)
楽譜にセリフを乗せるのに苦労した。今でも音楽が頭の中で鳴っている。

主要口頭発表

1. 「大道芸と祝祭」、日本フランス語フランス文学会シンポジウム、慶應義塾大学、1994 年、（『慶應義塾大学日吉紀要 . 言語・文化コミュニケーション』、No.16、1996 年、p.122-146）
2. 「言葉は生きている」、朝日新聞社主催「日本語シンポジウム」、朝日ホール、1995 年
3. 「新時代のきずな―日本とＥＵ」、朝日新聞社主催シンポジウム「市民社会―日本とＥＵ」、朝日ホール、1997 年
4. « Discourse, Dissonance and Diaspora : Identities for the New Millennium », Japanese studies Association of Australia, Central Queensland University Rockhampton Campus, 1999.
5. 「21 世紀『日本文明』の行方―グローバル時代に生き残れるか」、国際シンポジウム、中日新聞主催、外務省後援、名古屋能楽堂、1999 年
6. 「文学？の 20 世紀」、藝文学会シンポジウム、2000 年、（『藝文研究』、No.80、p.192-250）
7. 「バフチン研究の現在」、日本比較文学会全国大会シンポジウム、早稲田大学、2001 年
8. « Paradox at play – Ango as Japanese Humanist », Association for Asian Studies,

session 158. Paris Mon Amour : The Japanese Desire for France, 2002.

9. 「『いかがわしさ』と『まじめ』の狭間で―文学ルネッサンスをめざして」、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻（表象文化論）および言語情報科学専攻主催シンポジウム、2003 年、（『すばる』、2003 年 3 月号、p.86-108）
10. 「文学は国境を越えられるか」（トークセッション）、大岡信、第 4 回しずおか世界翻訳コンクール表彰式　国際文学シンポジウム、アゴラ静岡、2003 年 9 月 20 日
11. 「文学における“遊び”」、藝文学会シンポジウム、2004 年、（「フランス文学という遊び」、『藝文研究』、No.88、2005 年、p.185-193）
12. 「ラブレーの今日」、日本フランス語フランス文学会春季大会、立教大学、2005 年 5 月 28 日
13. 「人造美女は可能か？」、藝文学会シンポジウム、2005 年、（『藝文研究』、No.90、2006 年、p.173-211）
    司会者をやったが、登壇者は全員変装するように、とのお達しを真に受けて、メイド服で参加した。「いらっしゃいませご主人様」と観客にアピールした。
14. 「空想図書館」、ボルヘス会第 7 回大会、早稲田大学、2006 年 9 月 30 日、（『日本の作家が語る　ボルヘスとわたし』、岩波書店、2011 年、p.175-193）
15. 「楽問ノススメ」、慶應義塾大学創立 150 年記念講演会、2007 年 10 月 8 日、（『学問のすゝめ 21』vol.5「文学のすすめ」、p.21-35、p.55-67）
16. 「西脇順三郎とモダニズムの神話」、藝文学会シンポジウム、2007 年、（『藝文研究』、No.94、2008 年、p.164-229）
17. « Rabelais comme pierre de touche : Rabelais, Le *Livre de Job* et Dostoïevski », Université de Paris-Sorbonne, à l'invitation du Centre V.L.Saulnier, 6 novembre 2008.
18. 「交差する眼差し―日本文学とフランス文学の間で」（フィリップ・フォレスト氏との対談）、アンスティチュ・フランセ日本、2013 年 9 月 10 日
19. 「日仏翻訳交流の過去・現在・未来」（コメンテイター）、日仏会館創立九十周年記念国際シンポジウム、日仏会館、2014 年 4 月 19 日
20. « Rabelais anatomiste de la langue », colloque « Les langues et les langages dans l'œuvre de François Rabelais », organisé par Paola Cifarelli, Franco Giacone et

Alessandro Vitale Brovarone, Université de Turin, 13 septembre 2015.

21.「慶應義塾文學科教授･永井荷風―『三田文學』通巻 800 号突破を記念して―」（コメンタリー）、藝文学会シンポジウム、2018 年、（『藝文研究』、No.116、2019 年、p.169-173）

22.「学問としての文学、文芸としての文学」、『三田文學』主催、日吉独立館、2019 年 8 月 6 日

23. « Rabelais, le rakugo et moi », Université de Lille, 26 mars 2021 (conférencière étrangère), en ligne

24. « L'énumération est-elle lisible ? », Université de Lille, 30 et 31 mars 2021 (conférencière étrangère), en ligne

25. « Traduire Noël du Fail au Japon ; le problème de la rusticité », colloque international en ligne, « Un écrivain facétieux au Parlement de Bretagne : Noël du Fail, seigneur de La Hérissaye », *1520-2020*, Université de Rennes, 7 juillet 2021.

主なテレビ出演

1.「世界・わが心の旅　パリ・華のパサージュ物語」、NHK 衛星第 2、1994 年 4 月 10 日

2.「素晴らしき地球の旅　生と死の壁画を訪ねて」、NHK 衛星第 2、1996 年 7 月 14 日

その昔はワイドショーのコメンテーターをやっていたこともある。私の駄洒落は、番組では「飛び道具」として恐れられていた。自分の間口を広げるつもりだったが、その間に学問に励んでおけば、と今になると思う。

その他の著書

1990 年　『遊機体』、文藝春秋

1991 年　『ブリューゲル、飛んだ』、新潮社

『背負い水』、文藝春秋

『私の愛毒書』、福武書店

芥川賞の受賞第一作が、この中に収められている。芥川のパロディ「鼻と蜘蛛の糸」だ。他にも「雪国の踊り子」など。

1992 年　『アイ・ラブ安吾』、朝日新聞社
『コジキ外伝』、岩波書店
1993 年　『週刊オギノ』、角川文庫
『マドンナの変身失格』、福武書店
『アンナ流 元気がなにより』、海竜社
1994 年　『桃物語』、講談社
ラブレーのガルガンチュアは伝説の巨人。同じ伝説繋がりで桃太郎を主人公にしてみた。
『食べる女』、文藝春秋
1995 年　『生ムギ・生ゴメ・生アクビ』、講談社
『名探偵マリリン』、朝日新聞社
『アンナの工場観光』、共同通信社
『百万長者と結婚する教』、講談社
1996 年　『パリ　華のパサージュ物語』、日本放送出版協会
『空の本』、パルコ出版
『半死半生』、角川書店
1999 年　『空飛ぶ豚』、共同通信社
豚グッズのコレクションをしている。とうとう豚で一冊にしてしまった。
『荻野アンナとテリー伊藤のまっかなウソのつき方』、イーグルパブリッシング
『一日三食ひるね辞典』、TBS ブリタニカ
2001 年　『「笑う」しかない！』、三笠書房
『ホラ吹きアンリの冒険』、文藝春秋
2002 年　『けなげ』、岩波書店
『とんとん拍子』、清流出版
2004 年　『アンナのエネルギー観光』、エイ出版社
2006 年　『古武術で毎日がラクラク！ 疲れない、ケガしない「体の使い方」』（甲野善紀指導・監修）、祥伝社、
2007 年　『蟹と彼と私』、集英社
2009 年　『働くアンナの一人っ子介護』、グラフ社
2010 年　『殴る女』、集英社

2011 年　『大震災　欲と仁義』、荻野アンナとゲリラ隊、共同通信社
3.11 の現実を目に焼きつけた。4 月からの取材で 6 月には本が出た。
2015 年　『電気作家』、ゴマブックス
原発から波力発電まで、エネルギーに関する知識を全投入した。
2017 年　『カシス川』、文藝春秋
2021 年　『老婦人マリアンヌ鈴木の部屋』、朝日新聞出版

以上、「好評絶版中」のものが多い。諸行無常。

演劇脚本

2001 年　「美女で野獣」(新国立劇場にて 12 月上演)
ラブレー式の羅列を台詞に入れたら役者さんが困っていた。